

シリーズ⑧

地域の声

共生する森づくりへ
えひめ千年の森をつくる会

会長 鶴見 武道
事務局長 鶴見 恵子



○会の目的

私たちは千葉県で千年の森をつくる活動を開始し、平成一二年に愛媛県に転居したのをきっかけにして、この地で会を発足させました。

森林が更新を繰り返しながら千年の後まで森林であり続けるような森林を育み、持続可能な社会の実現をめざすことを目的としています。活動の柱は、

- ① 森づくり
- ② 世界に開かれた木炭学校
- ③ いのちがめぐる自然農法実践農場
- ④ 安全な食、農林産物の加工が

学べる場

- ⑤ ありのままの自分に出会う場
- ⑥ 未来循環型自給をめざした生活の提案

の六つで、毎月一回の森の活動、年間八回の自然体験教室、毎週一回の棚田の保全活動を継続して行っています。

その他に環境に関する講演会や、千年の森の植樹祭、森の学習会、木質バイオマス利用のためのイベント、炭焼きなどを行っています。

○会の活動状況



森づくりを進める会員の皆さん



植樹活動

活動エリアは、東温市井内の棚田、スギ・ヒノキ林、竹林、クヌギ林と、西条市丹原町千原・千原千年の森、東温市河之内・川内千年の森で、下刈り、枝打ち、間伐、地こしらえ、植樹を実施しています。平成一五年からは毎年約千本の広葉樹を植え、地域の水源を守り、動植物と人が共生する広葉樹の森づくりを進めています。

自然体験教室では、自然農法による米づくりや、森での枝打ち・間伐を継続して体験することによって、子どもたちが逞しく成長し、環境意識が高まっていくことを実感しています。先生や保護者、地域住民がそれぞれに主体的に関わる活動の場と

なっています。

平成一八年からは、地球温暖化防止のために二酸化炭素の排出量の削減をめざして、森から運び出した未利用材をベレット化して燃料として使うイベントを行い、合わせて高校生のボランティアが会場を訪れた方に環境クイズを行い、森林や環境への意識啓発活動に取り組んでいます。

また、森づくりでは、安全に作業を進める上で、専門的な知識や技能が必要になってきました。平成一八年には、他団体と協力して「えひめ森づくり安全技術・技能地域推進協議会」を設立し、チェンソーによる伐木造材に関する密度の高い、実質的に安全を確保できる技術・技能の研修を行っています。

昨年は、日本で初めての審査会を実施し、ランク三の技能者を五名養成しました。これが広がり、各所で安全に森林ボランティア活動を進めていけるようになることを願っています。

「えひめ千年の森をつくる会」は、平成一九年度「四国山の日賞」（森林整備部門）を受賞されました。

各地の
たより



森林環境教育活動を推進

（高知中部署）

○「高知県立香北青少年の家」での森林教室等

当署では、香北青少年の家で開催される森林教室、木工クラフト教室などに、職員を講師として随時派遣しています。

【五月九日は、土佐市立新居小学校の五年生一〇名、五月二六日は、仁淀川町立池川小学校五年生八名が対象】

森林教室では、一人一人が真剣な眼差しで話に聞き入り、また、質問時間では即座にほぼ全員の手が拳がるなど、活気あるものとなりました。



「カタツムリ作成中」

木工クラフト教室では、木の枝などを自然の形を生かしたカタ

ツムリやクマの置物を作成しました。子供たちは各自工夫を凝らし、創造性豊かで個性的な作品の仕上がり満足していたようです。

プログラムは一時間半という短い時間でしたが、最後にそれぞれが作った作品を手に笑顔で記念写真を撮りました。

【五月三〇日には、春野町立西小学校の五年生四五名が対象】

最初に森林が水源かん養や地球温暖化防止に果たす役割などを勉強した後、森林が有している機能などに関するフォレストクイズを行いました。これには生徒だけでなく、先生方からも手が挙がるなどおおいに盛り上がりしました。

【六月三日は、高知市立旭小学校の五年生九三名が対象】



「初めて使うノコギリ」

木工クラフトでは、ノコギリやカッターを使ってカタツ

ムリを作成し、初めてのノコギリ使用に苦労していた子供も多かったです。その甲斐あつてか、納得のいく作品が出来たようでした。

○大宮小学校で実験を交えた森林教室

五月二二日、香美市立大宮小学校の五年生三七名を対象に、森林教室を行いました。

今回は、森林の働きを説明するために、教室にトタンや土・草・落葉・木の枝などを持ち込み「森林」と「裸地」状態とを再現しました。ジョウロで雨を降らして、「水がどのように流れるのか、森林が土砂の流失や崩壊をいかに防いでいるのか」について実験しました。

さらに、水槽に森林の土壌の断面を作り、土の中の様子を観察してもらいました。

次に、壁板にヒノキの小枝をさして並べ、間伐が必要な森のモデルを作り、間伐を行うことにより森がどのように変化するか説明し、健全な森林づくりには間伐が大切なことを知ってもらいました。



森林の働きを実験で説明

子ども達は森林の働きに大変興味を示し、「森林についてこれからも勉強していきたい」という感想を書いてくれました。

香美市は、全面積の八七%を森林が占めています。この森林教室が子ども達にとって、身の回りにある森林の働きをさらに学んでいくための良いきっかけになることを願っています。

今後、このような森林教室等を通じて、子供たちに森林について興味を持ってもらい、気軽に学習できる機会を提供していきたいと考えています。

三嶺の森をシカの食害から守ろう(第四弾)

〈高知中部署〉

五月一七日、当署や三嶺の森をまもるみんなの会、高知県及び物部川流域三市(香美市、香南市、南国市)からの呼びかけによりボランティア等総勢八三名が集まり、物部川源流の三嶺の森をニホンシカの食害から守るため、獣害防止ネットを設置する作業を行いました。

昨年から通算で四回目となる今回は、県境付近の力ヤハゲ地区に防護柵を二箇所、さおり方原から三嶺山頂へ登る歩道沿いに防護柵を一箇所設置するとともに、単



ボランティアによる防護柵の設置

木保護のための網目状のプラスチック巻きも行いました。

今回の防護柵設置箇所は、資材の運搬に、片道二時間余りかかる場所があり、三嶺山頂に何回も登っている強者たちもさすがに大変だったようです。

登山道沿いのモミの木は既に何本もが根元部分にシカの食害を受けています。参加された方々の苦勞が実り、防護柵等によってキレンゲシロウマなどの希少植物、ササなどの植生回復と多くのモミの木がシカの食害に耐えて生き残ることを願っています。

一ノ谷山国有林「遊々の森」でトチノキ等の広葉樹を植樹

〈嶺北署〉

五月三〇日、嶺北署管内の一ノ谷山国有林内「遊々の森」において、土佐町立森小学校(六

年生)八名、土佐町立田井小学校(六年生)一九名、ふるさとの森を育む会一三名、土佐町役場産業建設課六名、森林保護員三名、署員一三名、総勢六二名の参加のもと、トチノキとケヤキ各一五〇本、ブナ一三〇本の計四三〇本の植樹を行いました。



記念標柱の前で記念撮影

植樹を始めるまでは雨が降るあいにくの天気でしたが、植樹を始めるとまもなく雨がやみ、行事も予定どおりに進んでいきました。児童達は慣れない作業に四苦八苦しながらも、育む会会員や署員に聞きながら、ていねいに苗木に土をかぶせていました。中には要領よく何本も植えている子もいて、笑い声の絶えないうちに植え付けも終わり、最後に各小学校の名前の入った記念標柱を設置し、その前で記念写真を撮り行事を終了しました。

帰りのバスの中では、「小学校の思い出が一つ増えて良かった。また何年かして自分達が植えた苗木を見に来たい。」という子もいて、将来への夢を込めた記念行事を手伝うことができた充実した一日でした。

「遊々の森(ゆめの森)」で 森林教室を開催

〈林内美活動とネイチャーゲーム〉
〈四万十署〉

五月二二日、黒潮町立南郷小学校(校長・黒岩譲)と遊々の森協定を締結しました。

協定箇所は、同小学校から徒歩で約一・五kmに位置する入野東浜林国有林(通称・入野松原)の一部五・六haで、四万十署では四箇所目の遊々の森となります。

五月二六日には第一回目の森林教室を行い、一年生から三年生までの一九名と教員四名、当署から森林ふれあい係長等三名が講師として参加しました。

最初に、「松原の三大ピンチ」と題し、入野松原ができた経緯と主な歴史として、宝永四年、津波によって松原が甚大な被害を受けたが、地元住民の努力で復興したことや、太平洋戦争末期には軍用資材とするための伐採計画があり、当時の営林署長

が松原保護に尽力したこと、現在はマツクイムシ被害を防ぐための事業や補植活動に取組んでいることを職員手作りの絵や写真を用いて紙芝居形式で説明すると、児童たちは積極的に質問をするなど、深く興味を持って学習していました。

その後、バケツと火バサミを持ち美化活動を行いました。短時間でゴミ袋二つの空き缶等が集まり、児童たちは環境を守る大切さと苦勞を実感した様子でした。

その後行われた、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」では、森林ふれあい係長が動植物の擬態について説明し、早速二人一組でゲームに取組んでもらいましたが、じっくり観察しながら、楽しそうに探していました。

閉講式後、林内で昼食をとり昼休みの遊び体験活動として、傾斜のある部分を活用しブランコを設置しました。すると、長い順番待ちが出来るほどの大人気とな



「ターザンごっこも大好評」

り、急遽準備のロープでターザンごっこもできるよう遊び場を追加しましたが、これも皆に好評で、帰校予定時間になっても止めようとせず、先生方を困らせるほど、自然の中の遊びを思いっきり楽しんでいました。

小雨の中で三嶺 清掃登山を実施

〈高知中部署〉

五月二五日、三嶺自然休養林において「三嶺を守る会」主催の第三回三嶺清掃登山が行われました。当日は前日からの小雨が残る中、当署職員八名を含む七団体五六名が九つのコースに分かれて、登山路などの清掃にあたりました。今回は合計約三〇キロのゴミが回収されました。

また、同時に二ホンシカによる食害調査も行われ、当署が担当した調査区域では、約二五%の樹木が食害、角研ぎなど何らかの被害を受けていました。

今後も三嶺の山々の美しさを維持していくためには、利用する人たちのゴミ持ち帰りマナー



徹底と同時に、増え過ぎているシカの問題への対応が重要であると感ぜられました。

「どんな実がなるのかな？」 ―校庭の樹木を学習―

〈ふれあいセンター〉

愛媛県の松野町立松野西小学校は、例年、総合的な学習の時間を活用した森林環境学習に取り組んでいます。今年度も、四年生を対象に七回計画し、ふれあいセンターに支援の要請がありました。

第一回目は、「木を知ろう」をテーマに五月一九日に実施しました。導入では、シカによる森林被害やマツ再生の取組などふれあいセンターの仕事を紹介した後、葉っぱの各部分の名前や形、付き方を説明して樹木への関心を持たせました。

校庭では、約三〇種類の樹木について、用途や花の開花時期、木の実の違いなどについて写真も使いながら説明、児童は、学



「ワークシートに記入中」

習したことを熱心にワークシートへ書き込んでいきました。ふりかえりの時間では、「学校に実のなる木があることを初めて知った」「イチヨウは広葉樹ではなかった」「おとなしいと思ったシカが、悪いことをすると聞いてビックリした」など次々に発表があり、樹木への関心はおおに高まったようです。

行きはこわさず 帰りはルンルン

―高校生が初めての山歩き―
〈ふれあいセンター〉

梅雨の晴れ間となった六月三日、四万十高校一年生二四名を対象に森林環境教育を実施しました。

今回は、七月に予定されている屋久島研修を控えて、体力養成や山歩きも体験させたいとの学校の意向を受けて、梶原町にある久保谷風景林をフィールドにしました。

途中、現地が遠望できる林道ではバスから下車し、地図の見方を説明するとともに、これから歩く山をイメージしてもらいました。

登山口の春分峠では、風景林の概要や山歩きの注意点を話し、早速歩き始めました。行きは、天然ヒノキやモミなどの巨木が続く比較的なだらかな登りのコースをとりました。たぐさんの落ち葉を踏みしめて歩くことから、「ギャー、すべる」「待って待って！」を連発してこわごわのスタートとなりましたが、樹木名の由来や用途などを説明する時は、熱心に聞き入っていました。標高八三二mの「枕立」では、久保谷風景林を管理する梶原森林事務所森林官から、この風景林の見所や山（森）歩きの魅力、樹木名の覚え方などを披露してもらいました。帰路は、アカガシが林立するコースを歩き、樹齢五〇〇年ともいわれている久保谷風景林のシンボルツリーの巨大アカガシで足を止め、改めてその大きさに驚いていました。その後、歩道沿いに咲くギンリョウソウも楽しみながら、徐々に山歩きに慣れた様子で足取りも軽く

下山しました。

最後に生徒代表から、「森林について、いろいろな学習ができました。また、屋久島では、今日の体験を生かしたいと思います」との感想があり、ふれあいセンターも学校の意向に沿えることができたようです。



「巨大アカガシにビックリ」

今月の主なイベント等の予定

△一五日・二四日

西土佐中学校「森林教室」

(ふれあいセンター)

△二四日

教育関係者のための森林環境教育支援講座 (局指導普及課)

△二五日・二九日・三〇日

高知市内小学校を対象に森林・木工教室 (局指導普及課)

△二六日

伊予之二名島古事の森づくり (愛媛署管内サル谷国有林)

シリーズ②

四国局の技術開発

『天然林におけるスギ更新技術の確立』

〈森林技術センター〉

技術開発の主な取組について、平成二〇年度は①回シリーズで紹介しており、今回はその第二弾です。

【目的】

高知県の県木として知られる「ヤナセスギ」が、ほぼ純林となつている千本山林木遺産資源保存林では、現在後継樹となる更新木がほとんど生育していません。これまで様々な試験が行われてきましたが、スギの天然更新 (自然に落ちた種子から発生した稚樹を育てる造林法) は困難なものとされてきました。

ここでは、ヤナセスギの天然更新による更新技術の確立と種子の直播き及び苗木の植付けによる更新の作業基準の確立を目指し、基礎データの収集に当たっています。

【試験地】

高知県安芸郡馬路村大戸山国有林 (二〇二八は林小班、雁巻山国有林 (二〇三二は林小班)、和田山国有林 (二〇九八は林小班)

【試験内容】

大戸山試験地では四〇%択伐地にスギ苗木を移植し (五〇〇本/ha)、成長調査等を実施しています。雁巻山試験地では、スギ種子

を直播きし、稚樹成立本数調査等を実施しています。

和田山試験地は、架線集材とヘリコプター集材によつてでき



地肌が露出しているタイプ



地肌を覆っているタイプ

【試験結果 (継続中)】

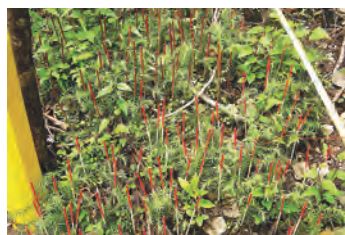
大戸山試験地では、植栽したスギは順調に生育しています。雁巻山試験地では、種子の直播きが多いプロットが発生も多くなり、直播きの効果が表れています。

和田山試験地では、比較的大きい面積の架線ギャップでも、

一辺が約四〇m (樹高程度) の大きさのヘリギャップでも稚樹成立本数が増加し、特にヘリギャップの稚樹の発生・生育状況は良好で、稚樹の増加率は架線ギャップに比べて、明らかに高い結果となっています。

架線ギャップよりも小さい面積のヘリギャップの方が、相対照度が稚樹の残存に好適と思われる、この違いがギャップ間の稚樹生存状況の違いをもたらし要因のひとつになったと考えられます。

また、被覆別タイプ試験では、全体として被覆による遮光率が高くなるほど、稚樹成立本数は少なくなる傾向がみられました。被覆の影響はギャップ面積の違いに応じて異なる結果となりました。このことから、ギャップ面積に応じて稚樹の好適な被覆状況の環境は違ってくるかと推測されます。



ヘリギャップ内の稚樹

(平成十九年度日本森林学会西部支部研究発表会等で発表)